

| | | |
|---------------------------------------|--|--|
| 春 日進キャンパス | テーマ 自然災害と民俗 ～災害を防ぐ知恵・生きぬく知恵～ | 秋 名城公園キャンパス |
| 5月18日(土) 10:00～12:00 | 文学部(宗教文化学科) 准教授 小林 奈央子 | 10月24日(木) 18:00～20:00 |

日本の自然風土と科学技術のあり方を問い、災害に対する備えの大切さを説いた戦前の物理学者寺田寅彦は、地震や津波は「新思想の流行などには委細かまわず、頑固に、保守的に執念深くやって来る」と述べ、にもかかわらずその記憶を「万人が綺麗に忘れがち」とであると指摘した。

そうした人間の忘れやすさを戒め、後世の人びとに被災の記憶を残す役目を果たす装置の1つとして災害記念碑がある。よく知られているものは、岩手県宮古市重茂姉吉の「大津浪記念碑」で、そこには過去の大津波で生存者が数人しかいなかったこと、「此処より下に家を建てるな」などの教訓が刻まれている。その教えに従って住民が高台に住むようになった当地区では東日本大震災での建物被害は1軒もなかったという。

東海地方にも、濃尾地震や伊勢湾台風など大規模な自然災害によって被災した教訓を刻む記念碑や、そこでの死者を悼む慰霊碑などが各所にある。また、いまお語り継がれる被災の体験や戒めのことばがある。

先人が残した教訓、警鐘に耳を傾け、民俗の中にある防災、減災につながる知恵を考えてみたい。



講師紹介：こばやし なおこ

専攻：宗教学、宗教民俗学

略歴：愛知県出身。名古屋大学大学院文学研究科（人文学専攻）修了、博士（文学）。2014年より愛知学院大学文学部宗教文化学科講師、2016年より現職。

主な著書・論文：『木曾御嶽信仰とアジアの憑霊文化』（共著）岩田書院、2012年、『現代社会と宗教』（共著）成文堂、2013年、『宗教とジェンダーのポリティクス』（共著）昭和堂、2016年、Gendering Religious Practices in Japan, Japanese Journal of Religious Studies, 44(1)（共編著）、2017年など。

| | | |
|--------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 春 日進キャンパス | テーマ 大規模災害と災害歯科医療 ～災害関連死を防ぐために～ | 秋 名城公園キャンパス |
| 6月1日(土) 10:00～12:00 | 歯学部准教授 久保 勝俊 | 11月7日(木) 18:00～20:00 |

「災害関連死」という言葉をご存じでしょうか。災害による死には、家屋の倒壊、火災、水難等で命を失う直接死と、避難所生活のような環境の変化によるストレス、疲労等で持病が悪化し生じる関連死（災害関連死）とがあります。災害関連死は災害が無ければ救えた可能性が高く、「防ぎ得た災害死」とも称されています。また、この災害関連死を発生させないための取り組みが医療従事者に求められるとともに、大きな使命ともなっています。とりわけ関連死の中で頻度の高い誤嚥性肺炎は、災害時に高齢者の罹患率が急増することが知られており、その原因として、極端な水不足や食生活の変化による口腔衛生状態の悪化、不便な避難生活による体力の低下、総入れ歯の紛失で生じる嚥下障害などが挙げられます。現在、「災害時の口腔ケア」は単にむし歯や歯周病（歯槽膿漏）の予防だけが目的ではなく、誤嚥性肺炎を防ぐための手立てであり、「命を守るための総合的なケアの一環」と位置づけられつつあります。災害時に適切な口腔ケアが出来るよう、災害時の口腔ケアの特徴や方法、平常時からできる準備等を交えてお話できればと考えております。



講師紹介：くぼ かつとし

専攻：口腔病理学、歯科法医学、災害歯科医学

略歴：2000年、愛知学院大学歯学研究科修了、博士（歯学）。2011年より愛知学院大学歯学部口腔病理学講座准教授。日本病理学会口腔病理専門医・研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門歯科医。2016年から日本法歯科医学会評議員となり、歯科法医学を通じて警察歯科活動にも貢献している。2018年、厚生労働省「平成30年度災害歯科保健医療チーム養成支援事業」災害歯科保健医療体制研修を修了。

| | | |
|---------------------------------------|---|--|
| 春 日進キャンパス | テーマ 来たるべき南海トラフ地震 ～地震発生のメカニズムと災害対策の現状～ | 秋 名城公園キャンパス |
| 5月25日(土) 10:00～12:00 | 商学部准教授 中野 健秀 | 10月31日(木) 18:00～20:00 |

地球の営みとしての地震活動を、プレート運動、活断層の存在、津波の励起など、その仕組みから、そして、甚大な被害をもたらした有史来の地震について、南海トラフで繰り返し起こる巨大地震を中心に解説する。

地震予知研究について、国の附置研や機関大学が中心となって行われている「前兆現象の検出を目指した様々な観測網」「スーパーコンピュータを用いたプレート運動の数値シミュレーション」「自然科学では説明のつかない宏観異常現象の発生」などについて現状を語る。

地域性を鑑み、愛知県内の企業における南海トラフ地震による大規模な災害の発生時の事業継続計画(BCP)策定の現状とその問題点を、また、東日本大震災の教訓を踏まえた上での、「災害対応力の向上」「災害に強いまちづくり」「地域防災力の向上」を柱とした名古屋市の震災対策実施計画、更に、教育機関における防災教育の推進および地域と連携した防災体制の構築について付言する。



講師紹介：なかの たけひで

専攻：地球物理学、データ分析、メディア情報学

略歴：1999年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（理学）。

主な論文：『東日本大震災におけるボランティア活動に関する意識調査』（2011）日本災害情報学会 第13回論文集 151-154『大学における事業継続マネジメントの必要性とその現状分析—愛知学院大学名城公園キャンパスを例に—』（2015）地域分析:愛知学院大学産業研究所所報 Vol. 54(2), 9-18

※春季日進キャンパス公開講座と秋季名城公園キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| 春 日進キャンパス | テーマ 災害時の国際支援と法規制 ～多文化共生社会における災害弱者の保護～ | 秋 名城公園キャンパス |
| 6月8日(土) 10:00～12:00 | 法学部講師 尋木 真也 | 11月14日(木) 18:00～20:00 |

外国人労働者の受入れ拡大や東京オリンピックの開催を控え、日本は多文化共生時代への過渡期にあるといえます。とりわけ東海地方は、工業地帯で働く外国人も多く、相互に理解し支え合うことが特に求められる地域でもあります。こうした状況に対応するため、現在外国人の待遇に関する法律や条例等の法整備が進められています。他方で、地震大国である日本においては、災害対策も急務となっています。東日本大震災に際しては、外国からの支援の受入れ体制や、被災した外国人の心のケア等の一層の充実が求められましたが、今後東海地方に大地震が発生した場合、外国人への配慮がより必要になると想定されます。

こうしたなか、国際社会を規律する国際法は、人為災害たる戦争に関しては多くの規則を有する一方で、自然災害に関しては充実していません。しかし、近年「国際災害法」と呼ばれる分野が発展をみており、国連や赤十字で議論が重ねられています。こうした現状を鑑み、この講座では災害時の外国人保護について法的観点からお話しするとともに、市民としてとるべき行動について考えていただく機会にしたいと思います。



講師紹介：たずのき しんや

専攻：国際法、国際人道法

略歴：早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。2015年より現職。

主な論文：『東日本大震災における支援する外国人、支援を受ける外国人—災害時医療の問題を中心に—』『早稲田大学社会安全政策研究所紀要』第4号（2012年）

※春季日進キャンパス公開講座と秋季名城公園キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。